

靴下製造技術で“可能性”を広げる 作り手の技術と想いが繋いだ新たな価値創造

事業内容

創業1962年

各種靴下企画製造販売（紳士・婦人・子供靴下、パンティストッキング、タイツ、編み技術を利用した関連商品）

知的財産権と内容

特許番号第7045029号	矯正手袋
特許番号第7125806号	靴下
商標登録第6506895号	エム／M
商標登録第6508101号	ミカサ、エム／M、MIKASA
意匠登録第1661969号	靴下

他 特許権1件、商標権22件

(2025年11月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



本社営業部 甘利 勇祐さん

靴下産業日本一の奈良県で60年以上の歴史を持つ

当社は1962年、靴下製造が盛んであった奈良県で、靴下の卸・販売会社として創業。自社製造も行うべく、2011年に奈良工場を構え、2025年で創業63年目を迎える靴下製造販売会社だ。現在は神奈川県に本社、海外生産拠点として中国に工場を持つほか、2026年には新工場の建設も予定している。流行の移り変わりが早いアパレル分野では難しいとされる特許取得だが、数ある当社製品のうち、サンダル着用時に指の股の痛みや蒸れを軽減する靴下や、ニット素材で製作したマスクなどで特許を取得。生み出した技術は、靴下だけにとどまらず多方面に生かしている。商標についても現在24件を保有しており、商品やブランド展開においても欠かせないものとして、知財の取得・活用を進めている。現在、こうした知財について主に対応しているのが、本社営業部の甘利氏だ。

自社ブランドと技術の可能性を高める“知財”

知財取得への意識が高まったきっかけは、自社商品の販促やブランド価値の向上に向けたハウスマーク（営業標識）の商標取得であった。ローマ字の『MIKASA』は既に他社が商標を取得していたこともあり、同じ文字が含まれている当社のハウスマークの商標取得は難しいとされたが、拒絶査定に対して、INPITの協力のもと

と意見書を作成するなど、苦労の末、取得に至った。現在は社内で新ブランド名を公募し、商標取得のうえブランド展開を進めるなど、新たな挑戦も始めている。また、海外商標についてはマドプロ（マドリッド協定議定書に基づく国際商標出願）を活用し取得した。一度に複数国出願できるため手間の削減につながったほか、出願費用に関する補助金を活用できたため、負担を軽減のうえ出願できたという。さらに、近年は奈良県立医科大学との出逢いをきっかけに、特殊な手袋の開発にも携わった。同大学教授から「パーキンソン病患者が日常生活でリハビリを行える製品を作れないか」と相談を受け、試作・改良を何度も繰り返すこと3年、矯正手袋『にぎるくん』の開発に成功した。これには手の甲側に生地が反り返る特殊な編み方が施されており、パーキンソン病が引き起こす手足の震えや筋肉のこわばりなどの運動症状に対し、装着して日常生活を送ることで、握力など手指の筋力の改善が見込めるというものだ。実際に患者に着用してもらった臨床評価においても、5日間の試験で手指の筋力の改善が確認された。手袋という手軽さから、今後はスポーツアスリートの筋力向上などへの活用も期待されている。

見えないところでも“盾”となっていた知財

知財の“取得”にとどまらず、その1歩先の“活用”に向けて引き続き取り組んでいきたい、という当社。そ

うした中で当社が特に知財の取得効果を実感した出来事は、意匠権を取得していた足つぼ靴下に関することだ。当社の意匠権の存在を知らずに類似商品を販売してしまっていたある企業が、当社の意匠権の存在を知った後、謝罪のうえ販売を停止してくれたことがあった。当社は偶然にも同企業の販売をチェックできていなかったものの、知財を取得していたことが予防線となり、技術者が苦労して生み出した自社製品を守ることができた。

知財戦略の課題



これまで特許や多数の商標を取得している当社であるが、「より戦略的に知財を取得していくことが重要だ。もちろん、取得・維持には費用が発生するため、ある程度の取捨選択が必要だろう」と甘利氏は語る。

「とはいえ、自社ブランドの保護や認知度向上に向けて、知財は非常に重要な手段であるため、今後出願する際は優先度を都度慎重に検討していきたい」とも話した。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

都度、INPITや弁理士等の専門家に真摯に対応してもらえたことで身に付いた知識から、今では自身で商標出願できるまでになり、自信にもつながっているという甘利氏。「知財の知識はゼロから始まったが、今では社員からの出願の相談にも対応できるようになった。自社、そして社員の想いを『守る』ための知財取得の重要性も日々感じている。知財と聞くとハードルが高いと感じられるかもしれないが、まずはINPITなど支援機関へ相談することをおすすめしたい」と力強く語った。



商標権を取得した当社のハウスマーク



手の甲側に生地が反り返る、パーキンソン病患者向け矯正手袋『にぎるくん』



知的財産活用のポイント

積み重ねた技術と社員の想いの証明 さらなる技術向上へも導く

長年の靴下製造で培った技術はもちろん、技術者や社員のアイデアや想いを知財という形でも残してきた当社。その力を常にアップデートし続けることで新たな知財取得の機会も生み出している。本来“履き心地”を求められる靴下も、締め付けに特

化させたことで『にぎるくん』が生まれたように、持ちうる技術の転換により、今後はスポーツや医療の分野でもブランド展開を検討中だという。機能性が高まるにつれて、これまで以上に知財の重要性も高まるだろうと考えている。培った技術や想い、また、そこに加わる新たな発想を形にできる知財の取得が今後も期待される。

COMPANY DATA

取材：2025年11月

企業名：株式会社 三笠 所在地：神奈川県横浜市港南区日野南3-2-71 電話番号：045-831-7011

URL：<https://www.kk-mikasa.co.jp/> 創業：1962年 資本金：3000万円 従業員：79名

